

インターバンクの声（2015年3月19日）

注目された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、声明から市場で予想されていたように『辛抱強く』との文言を削除する一方で、今後数年間の金利見通しを引き下げた上に、米景気の先行き見通しも下方修正した。声明の内容は予想から大きく逸脱するものではなかったが、為替は金利と成長率見通しが引き下げられた部分に強く反応したようで、ドルが大きく売られた。とりわけ極端な反応を見せたのがドル売り・ユーロ買いの動き。一時的な取引にしても声明が発表される前の1.06ドル台前半から400ポイントも上昇した1.10ドル台前半を付けた。少し反応が過剰だったのか、反発上昇した高値からは200ポイントほど反落しているが、パリティー（1ユーロ＝1ドル）方向を睨んで膨らませていたユーロ売りのポジションを何かあれば傷の浅いレベルで買い戻す動きが一気に爆発したようだ。ユーロ圏の状況を考えればユーロ安の見通しが消える訳ではないが、もう一度ユーロ売りで臨むには少しエネルギーが必要になりそうだ。FRBの6月や9月の利上げ開始の可能性は残ったが、年内の利上げ開始は消えたとする見方も決して少数派ではなくなったようで、指標結果などを注意深く見つめなければならない相場が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。